

ドラマチック四街道 リサ



—— チプロジェクト



目次

2 はじめに

リサーチテーマ 01「人・活動」

4 NPO法人四街道プレーパークどんぐりの森

6 NPO法人四街道こどもネットワーク

8 四街道市子ども会育成連合会

10 子どものための市民活動早見表

リサーチテーマ 02「生業」

12 生業

14 農家の櫻井さん

15 ホンモロコ養殖

16 Y・Y・NOWSON

18 ふじ農園／うどん屋麦

19 戸田養鶏場

リサーチテーマ 03「歴史」

20 歴史

22 かつて軍都として栄えた四街道

24 軍都に生きた人々

26 四街道映画劇場

28 ワークショップを終えて

30 ワークショップ参加者・スタッフ

31 活動記録

はじめに

日常こそ、ドラマチック

2013年に始まった、千葉県四街道市のシティセールスプロジェクトである、ドラマチック四街道の活動では、市民の暮らしぶりにフォーカスした映像が作り続けられている。地元出身の著名人が出演するわけでもなく、派手な仕掛けがあるわけでもなく、市民を主演とした、四街道市のいつもの暮らしが、軽快な音楽に合わせてテンポよく流れ、心地が良い。カメラと被写体である市民の距離が近いいためか、一瞬のカットでも、繊細な感情が良く伝わり画面に惹きつけられる。撮られ慣れていないはずの市民が、近くでカメラを向けられているのに、自然体でいる事が不思議に思う。

この一連の映像作品のクオリティが、自分たちの住むまちや、暮らしという、見慣れたものを、今までと違う意識、眼差しで見るときのスイッチの役割を果たしていると思う。「ベッドタウンの日常」と聞けば、退屈な抑揚のない平凡な暮らしを、多くの人が想像してしまうが、映像作品毎の最後に画面に浮かび上がる「Dramatic Yotsukaido (ドラマチック四街道)」は、妙にしっくりくる。

日本全体が抱える複雑な社会問題や、未曾有の災害の脅威にさらされる昨今、いつもの暮らしにある、家族や友人、知人、地域とのつながりや、そこから生まれる安心や幸せは、何事にも代えがたいと実感する人は少なくないのではないか。

当たり前な日常こそ、ドラマチックなのではないかと思う。

「自分が生まれ育った四街道の事を、もっと、ちゃんと知りたい。そして、生まれてきた子どもが大きくなったら、それを教えたい。」市民参加型として半年前に始まった、リサーチプロジェクトへの応募の動機を尋ねた時に、そう答えてくれた参加者がいた。四街道市に住む方や、四街道市にゆかりのある方々と共に、取材やフィールドワークを行った。この冊子は、参加者自身の言葉や、撮影した写真を掲載した集大成。

ドラマチック四街道の活動で展開される映像や、写真集をはじめとした様々な活動も、ぜひ共にご覧いただきたい。

ドラマチック四街道リサーチプロジェクト 講師 高橋孝治

四街道市

千葉県の北部に位置し、首都圏の住宅都市として、現在は約91,000人が暮らしている。北総台地特有のなだらかな地形に、里山や谷津田を残し、住宅地と自然とが調和するまちとして今日に至っている。

ドラマチック四街道

「日常こそ、ドラマチック」を主題に、四街道市の普遍的な暮らしを見つめ、等身大のまちの様子を発信していくプロジェクト。2013年に映像「ドラマチック四街道（はじまり篇）」を公開し、これまでに合計5本の映像を公開。写真集の制作や、のべ1,000人が参加したみんなでカレンダープロジェクトなどの取り組みも行う。

ドラマチック四街道リサーチプロジェクト

市民参加のもとフィールドワークや取材を通して、次世代に残していきたい四街道のモノ・コトを探求する試み。12名の参加者から寄せられた100以上のキーワードから「人・活動」「生業」「歴史」の3つテーマを設定し、半年間におよぶリサーチを行った。

01 人・活動



高校生・大学生が小学生に勉強を教える「チームよつてら」や、地域の大人が子どもの居場所をつくる放課後子ども教室「まじゃりんこ」など、子どもに関わる市民活動にはとても幅広い世代が参加している。そのことに気づいた私たちは、これらの市民活動の存在は子育て世代に限らず多くの人にとっても、四街道の大きな魅力なのではないかと考え、これをリサーチテーマとすることにした。

今回は「NPO法人四街道プレーパークどんぐりの森」「NPO法人四街道子どもネットワーク」「四街道市子ども会育成連合会」の3つの活動を中心にリサーチし、また、調べられる範囲ではあるがその他の活動も一覧としてまとめた。こんなに多くの活動があることをぜひみなさんに知ってもらえればと思う。

子どもを中心に世代をこえて交流できる場所

NPO法人四街道プレーパークどんぐりの森

2015年末、私たちは四街道プレーパークどんぐりの森を取材した。ここは子どもが自然を相手に遊ぶ場所であり、幅広い世代の大人が楽しみながら支えている場所でもある。プレーワーカー（プレーパークのスタッフの方）にお話を伺った。まずはどんな人たちが参加している場所なのか聞いてみると……。

「子どもから大人まで参加されます。自分の足で遊びに来る小学生、未就学児はお母さんと、一番森を楽しんでいるのは小学3～5年生です

ね。大学生はワーカー（スタッフ）で入っている子がいます。中学生もふらっと来ますよ。小さいころにここで遊んだ子が、懐かしいなあって。」斜面のスロープを利用した滑り台、木に吊るされたターザンロープなど、自然の中で遊ぶことはもちろん、この日は子どもと大人が真剣に競うベゴマ大会や、プレーパークの中にピザ釜を作る「かまどプロジェクト」が行なわれていた。大人と子どもが一緒になって取り組むかまどプロジェクトの魅力とは？

「大人と子どもが対等な関係でゼロから始めて完成までを体験できるというのは子どもにとってもやはり自信につながりますよね。その過程で今まで知り合わなかったような人たちが関わって、『ああでもない、こうでもない』と言いながら完成を目指すことが大事かなと思っています。」

自然での遊びにはつきもの、怪我があった時はどうしているのだろう。

「ロープから落ちたり、倒木に乗っててすべったりで骨折は2回くらい。小さな怪我はしょっ



ちゅうですよ。『顔にキズをつけて帰ってきました』みたいなことを（保護者から）言われることもありますけど、そういう時は、小さな怪我をすることで、大きな怪我を防ぐことになるなど、ここがどういう考えで運営されていて、といったことを説明しています。もちろん骨折などの大きな怪我があった場合は、こちらから連絡もしています。保険にも入っていますが小学校に配っている森だよりという通信の中でも『怪我とお弁当は自分持ち』と伝えていますので、だんだんとわかってもらえてきているのかなと思います。」

お話を聞かせてくれたプレーワーカーは子育て中のお母さんでもある。

「子ども同士でけんかをするにしても、その原因はそれぞれにあるので、それを汲んであげられるといいなと思っています。ただ、自分の子

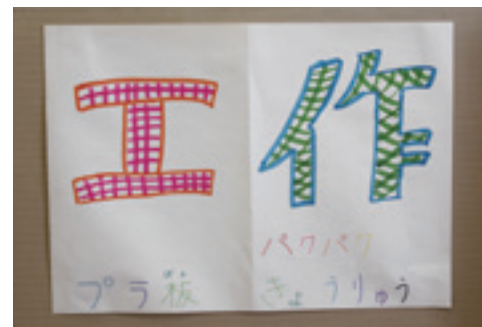


もには難しく、よその子なら許してあげられるけど……。自分の子どもには怒ってしまうことも。

でもプレーパークなら親に怒られても、別の大人は許してくれたり、そういった逃げ場があるということはすごくありがたいことだと思っています。」

この話を聞いて、子どもが家族以外の大人と自然に交流できる場所がいかに大切か教えてもらったように思う。（文：藤原達）

●活動場所 A和良比どんぐりの森 四街道市和良比字中山690 皇産霊神社前の林 / B栗山こたりの森 四街道市栗山字中谷津218-1栗山小学校裏 / C鷹の台プレーパーク 四街道市鷹の台2-36 / D出張プレーパーク ●活動日時 A毎週月・金曜日と毎月第1・3土曜日10:00～17:00 / B第2土曜日・隔月第4土曜日10:00～17:00 / C第4木曜日・隔月第4土曜日10:00～17:00 / D第1・2木曜日10:00～17:00 ●<http://dongurinomori.net/>



地域で育む子どもの未来

NPO法人四街道こどもネットワーク

四街道市とその近郊の子どもたちを対象に、子どもが自ら育つことを応援する団体です。子どもとともに地域の人と関わりあひながら、文化的体験活動を行っています。

主な活動は、舞台芸術の鑑賞や乳幼児と母親の集える場所作りを行う子育て支援、おやこキャンプや異なる年齢の青少年の交流会など子どもの体験活動、そして放課後子ども教室など、子どもたちの成長を支えています。

四街道市放課後子ども教室 出会い・体験・夢ひろば

私たちが、取材に訪れたこの日は、放課後子ども教室に、子どもたちがあつまり、思い思いのことをして過ごしています。男の子たちはボー

ドゲームに熱中していました。スタッフは、基本的には見守っています。でもダメなことはダメと叱ります。また、子どもたちの話にはしっかりと耳を傾けます。出会い・体験・夢ひろばは、親でもない先生でもない、地域の人が子どもたちを見守り、支えてくれる、そんな場所です。

こどもまつり

1月23日に、こどもまつりが開催されました。このイベントは子どもが主体。スタッフになった子どもたちが、企画から当日の運営まで行う子どもの体験活動の一環です。

おまつりの看板や、その日に必要な道具も子どもたちが準備します。大学生や社会人のお兄さんお姉さんは、サポートに回ります。会話をし

ながら、子どもたちのアイデアを引き出したり、行き詰ったらさりげなくアドバイスをしたり、欠かすことのできない存在です。そんな彼らもこどもネットワークで子どものときから様々な経験をしてきた人たち。

おまつり当日、朝にみぞれが降り、残念ながら屋内での開催になりました。でもそんなことに関係なく、ちびっこたちはあてゲームに夢中の大きな口におにぎりを投げ入れます。口に入れなくて、どんだんに近づくちびっこ。いろいろ考え自ら上手に入れる方法を見出すもの

です。ちびっこの隣では小学生たちはプラバンに集まります。真剣に絵を描き、出来上りを待ちます。

そして、「バクバク恐竜」を熱心に折るのはマダム達。みなさん真剣です。年齢性別関係なく楽しめるっていいですね。

五感を使い、様々な体験を重ねていく。学校や年代関係なく人とつながっていく。そんな経験を通じて、子どもたちの生きる力を育てていく場所がある。それが四街道の良いところなのです。(文:石渡由右子)

●活動場所 たまごキッズ - 四街道四区集会所 / 放課後子ども教室 - 四街道四区集会所 ●活動日時 たまごキッズ - 金曜日 10:00 ~ 13:00 / 放課後子ども教室 - 水・金曜日 14:30 ~ 17:00 月1回休日体験 ● <http://www2.ttcn.ne.jp/yotsuko/>



子どもフェスティバル



飯ごう炊はん



学区子ども会合同
「冬のお楽しみ会」



四街道ふるさとまつりパレード



子ども会と安全教育

地域の子ども会活動をサポート！

四街道市子ども会育成連合会

昭和50年に四街道町子ども会育成会連絡協議会（25団体）を結成し、平成27年に40周年を迎えた、四街道市子ども会育成連合会（以下、四子連）。現在31団体の地域の子ども会活動のサポート役として、子ども会活動に際し必要な講習会の開催や、ジュニアリーダーの育成をはかり、子どもの手による子ども会活動を推進している。4才～18才までが子ども会会員、それ以上は育成者として登録される。地域の子ども会のそれぞれが工夫を凝らした行事を行い、地域の伝統行事にもふれながら、地域の人々と関わっている。子ども会は、勉強やスポーツが苦手な子ども、それぞれが得意分野を発揮し、輝ける場所である。

講習会

子ども会活動を行う上で身に付けておきたい事が学べ、大人と子どもと一緒に参加すると共通理解になり、子ども会の運営がスムーズになります。

- 子ども会と安全教育:子ども会活動を安全に行うためにはどんなことに注意したらよいか。
- 救急と安全:実際に事故が起きてしまった時の対応について。
- ゲーム指導:子ども会行事で取り入れると効果的な、ゲームの紹介。
- 実技講習会:アートバルーンやドッチビー(※1)、ユニカール(※2)などの講習会。

子どもフェスティバルの開催

対象は、市内の小学4年生以上。市総合運動公

園キャンプ場にて「飯ごう炊はん」や「ゲーム」を行います。火を使う機会の減った昨今、貴重な体験です。リーダーのお兄さんお姉さんたちとゲームをしている姿はとても楽しそうです。

四街道ふるさとまつりパレードへの参加

山車を作り、ふるさとまつりに参加していない子ども会の子もたちにも一緒にパレードを楽しんでもらう事を目的に参加していますので、飛び入り参加OKです。

ブロック会

小学校区ごとに、子ども会役員が集まり情報交換をします。他の子ども会との情報交換はとても参考になり、学区によっては学校や自治会も参加していて、良い交流の場にもなっているようです。ブロック会で提案され、学区内の子ども会が合同で行事を開催しました。

派遣事業

四子連理事やリーダークラブが地域の子ども会に伺います。

- アートバルーン:風船を使って、簡単な動物や剣などを作って遊びます。
- ゲーム指導:行事に合わせて様々なゲームを行います。

ジュニアリーダー初級認定講習会

- 小学5・6年生を対象にリーダーになるためのスキルを身に付けます。(リーダーの役割・プログラムの作成・ゲームなど)
- 身に付けたスキルを、地域の子ども会の行事の中で発揮します。
- 印旛郡市内の他市町リーダーと交流します。

四街道市リーダークラブ

- 中学1年生～25才ぐらいまでが活動(平成27年度は20名が登録)

- 活動場所 主に四街道市内の公民館、学校、自治会館、四街道総合公園など
- 活動日時 不定期
- Facebook「四街道市子ども会育成連合会」で検索



四街道市リーダーズクラブ

- 四子連事業、印子連・県子連事業、市外の事業に参加
 - 派遣事業で地域の子ども会と交流
 - リーダーズクラブの自主事業を開催
- リーダーのみなさんは勉強や部活で忙しい中、講習会や研修会に参加してスキルアップしながら、地域の子ども会の小学生や他市町の同年代と交流し活動を楽しんでいます。リーダーズクラブのTシャツには「Characters create joy」(個性が集まり、「楽しい」を創造する)というキャッチコピーがあり、それぞれが個性を生かしながら活動していることがうかがえます。
- 子どもと大人の間にいるリーダーはとても大切な存在で、育成者と呼ばれる私たち大人も教わることが多いです。

大人も子どもも何かと忙しく、地域と関わることも少なくなってきましたが、地域みんなで子育てをする「大人も子どもも楽しい子ども会」をこれからも残していきたいですね。
(文:千脇みゆぎ)

※1 ドッチビーは、ドッチボールのボールをウレタン製のディスクに持ち替えて行うスポーツ。やわらかい素材で出来ているので、小さい子から大人まで一緒に楽しめます。

※2 ユニカールは、氷の上で行うカーリングを室内で行なえるようにしたスポーツ。専用カーペットの上でプラスチック製のストーンを滑らせて行います。

子どものための市民活動早見表

	未就学児	小学生	中学生	高校生	大学生～
NPO法人四街道 プレーパーク どんぐりの森	主に未就学児～小学生 ワーカーは大学生以上				
NPO法人 四街道子ども ネットワーク	演劇鑑賞はどなたでも たまごキッズは乳幼児とその親 10代の保育ボランティアは小学校高学年から高校生 子どもの体験活動は幼児から高校生、出会い・体験・夢ひろばは主に小中学生				
四街道市子ども会 育成連合会	会員は4～18才 地域の子ども会への参加は主に小学生 ジュニアリーダーは中学1年～18才 リーダーは18才～25才				
森のようちえん たねっ子	1、2才児				
森のようちえん 根っこの子	年少～年長				
おうちプラス+	主に未就学児とその親				
にこにこ文庫 さとの子会	午前中は乳幼児とその親の子育て支援、午後は園児と小学生の快い居場所づくり				
四街道 子ども記者クラブ	4～6年生。中学生以上はサポート・スタッフ				
四街道 少年少女合唱団	クローパーククラスは4才～小学2年生 シニアクラスは小学3年生～18才				
四街道 地域子ども教室 まじゅりんこ	どなたでも参加可				
四街道市 レクリエーション 協会	放課後子ども教室は主に小学生				
チームよつたら	参加者は小中学生 先生は中学生以上				

各団体の活動内容

NPO法人四街道

プレーパークどんぐりの森

本冊子4～5ページ参照

NPO法人四街道子ども ネットワーク (よつこネット)

本冊子6～7ページ参照

四街道市子ども会 育成連合会 (四子連・市子連)

本冊子8～9ページ参照

森のようちえん たねっ子

特定の園舎を持たず、市内の豊かな自然の中で、保育者とお母さんたちが交代で1、2才の子どもたちを預かり合う、外遊び・散歩を中心とした野外保育活動。

活動場所：プレーパークどんぐりの森、たろやまの郷、市内里地里山
活動日時：1才児 隔週月曜・毎週金曜
2才児 毎週月曜・金曜
※後期は隔週水曜も
9:30～13:45

ウェブ：http://tanekko.jimdo.com/

森のようちえん 根っこの子

「就学前の子どもを」「野外で」「親が交代で預かりあう」という自主保育をしながら、子ども達の成長を共に育てている。

活動場所：プレーパークどんぐりの森、たろやまの郷、市内里地里山
活動日時：月曜～金曜 (水曜休)
9:30～13:45

ウェブ：http://neconoko.cocolog-nifty.com/

おうちプラス+

子どもたちやママの憩いの場として、また子どもたちやママの「こんな事やってみよう！」をかたちにする場。

活動場所：主に鷹の台自治会集会所
活動日時：毎週火曜 10:00～12:00

ウェブ：Facebook
「おうちプラス+」で検索

にこにこ文庫さとの子会

身近な場所でふらっと立ち寄れる家庭文庫。絵本や読み物に小さい頃から親しみ、親子のふれあいや、本を通して心を育てる機会を作ります。そこで子育てママ達が出会ったり、交流が生まれるといいなと思っています。子ども達やパパとママの「やってみよう！」を応援します。

活動場所：もねの里
活動日時：毎週金曜
子育て支援
10:00～12:00
小学生の快い居場所づくり
14:30～17:00

ウェブ：Facebook
「にこにこ文庫」で検索

四街道子ども記者クラブ

四街道市内に在住、在学している小学生、中学生が中心となって、地域のメディアをつくる活動です。四街道子ども記者クラブは活動を通じて、自分たちの暮らす地域のこと、自分たちを取り巻く生活環境や社会状況のこと、今まで普通や常識といわれていたものを、改めて見つめ直したり、時には批判的に捉え直したりしながら、情報を発信していくことを目的としています。

活動場所：主に市内
活動日時：月1回土曜
時間は取材先により異なる
ウェブ：http://kodomokisha.jp/

四街道少年少女合唱団

指導者の下、声楽で大事な音程・和音感覚、そして自然な発声方法を学びます。そして合唱音楽や劇音楽の制作をするなかで夢作りや、豊かな創造力を育み、豊かな心を育てたいと願っています。また、演奏活動による社会体験を通じて、社会性や自主性を育成し、文化の担い手として育ってこれればと願っています。

活動場所：四街道公民館
(4才～小学2年生)
わろうべの里
(小学3年生～18才)
ウェブ：http://ameblo.jp/yotsukaidoujc/

四街道地域子ども教室まじゅりんこ

今、子どもに必要なのは、大人の価値観を気にすることなく自分なりの在り方で過ごせる場。「まじゅりんこ」では違う学校の子どもが交じり合い、伸びやかに過ごしています。年に数回の農業や自然体験も楽しんでいます。

活動場所：大熊記念コミュニティセンター
月1回野外活動
活動日時：平日15:00～17:00(木曜休)
土・日・祝13:00～17:00
夏期は18:00まで

四街道市レクリエーション協会

ホテル観察・ウォークラリー・クリスマスなど主催事業のほか、市・学校・子ども会等の委託事業、放課後子ども教室「あそびの城」、夏祭り・文化祭・公民館祭り等参加事業などのレクを通じて子どもの居場所づくりから高齢者対策まで幅広い生涯学習・地域づくり活動を行っています。

活動場所：四街道市内各地
活動日時：放課後子ども教室
「あそびの城」
平日15:00～16:30
その他の事業はイベント毎に活動日時は異なる
ウェブ：http://www.rec-yotsukaidou.com/

チームよつたら

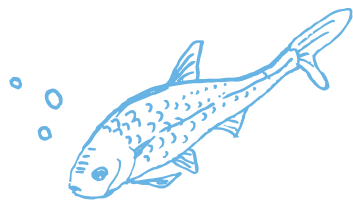
チームよつたらは、公民館や学校そのものの施設を利用し、地域・学生・行政など様々なコミュニティの結びつきの中で、子ども達の学習支援、体験学習の場である「寺子屋」を運営しています。寺子屋では小学生の自主学習の支援や、体験学習の企画運営をしています。地域のコミュニティのつながりを生かし、貴重な学びの場となることを目指しています。

活動場所：学校、公民館など公共施設
活動日時：毎月第2・4土曜
13:30～15:30 四街道公民館
夏休み等長期休み時は
千代田・旭公民館、鹿放ヶ丘
ふれあいセンターにて
時間は各施設により異なる
ウェブ：Facebook
「チームよつたら」で検索

内容は公式ホームページなどから抜粋しています。平成28年3月時点の情報です。

リサーチテーマ

02 生業



四街道の歴史を紐解くと、氷河期の時代から陸地であったことが分かり、比較的穏やかな気候と豊富で良質な水のおかげで古くから農業が盛んであったことがうかがわれる。明治時代から軍都として発展してきた四街道は、軍用地であった土地の割合が高い。太平洋戦争の後に軍用地は、学校をはじめとする多くの公共施設の用地として活用されている。北方に広がる鹿放ヶ丘は戦後、本格的な開拓団によって開墾された土地で、今でもその2世、3世によって農畜産業が営まれている。

一方、総武本線を境にした北と南（千代田・旭ヶ丘・みそら）では、高度経済成長期に大規模な団地開発が進んだことで、いわゆる団塊の世代の住民が一斉に入居したことにより、今では高齢化率が県内一高い市となり、これからのシニア世代の生き方をうかがう上で、注目すべき活動を多く発見できる。このような歴史を背景に、自然豊かな四街道で、日々の営みを送る人々にスポットを当てた。

(文:足立桂子)



自然豊かな四街道の 生業をめぐる地図





農家の櫻井さん

農家全般、櫻井さんの取り組み

吉岡にある畑で野菜を育てる櫻井優祐さん。朝から日没まで農作業をしている。野菜を育て、収穫をしたら袋詰めをして出荷する。農家の仕事に休みの日はない。

冬の時期に櫻井さんを訪ね、里芋やにんじん、小松菜があった。今後は、夏に向けてトマトやピーマンを作る準備をするという。いずれはイチゴの栽培にも挑戦したいと櫻井さんは前向きに話す。

櫻井優祐さんの想い

小さいころから祖父母の作った野菜を食べて育ち、その祖父母から農業を受け継いだ。それは、畑がなくなることが寂しいという思いからだった。農家の知恵を祖父母から教わり、日々野菜作りに励んでいる。櫻井さんが作った野菜は、

JAや地元のスーパーに卸され消費者に渡る。野菜を栽培してから消費者に渡るまでの苦労は測り知れない。取材をきっかけに、店頭で櫻井さんの野菜を探すという楽しみが増えた。(文:林果帆)



ホンモロコ養殖

ホンモロコは体長7～8cm程のデリケートな魚。卵から成魚になるまで育てることが難しい。このホンモロコを育てているのは、櫻井平さんをはじめ、平均年齢72才の方々。総勢51名が活動し、生存率を11%から30%まで上げることを目標として取り組んでいる。毎年秋には収穫祭を行い、ホンモロコを地域の人に振る舞っている。櫻井さんいわく、白焼きにするのが一番おいしいそうだ。

櫻井平さんの想い

「荒れている土地をどうにかしたい」という想いから、櫻井さんはホンモロコの養殖事業を始めた。しかし、櫻井さんの想いはこれだけに留まらない。ホンモロコの養殖事業を起爆剤とした「村おこし」、さらには地域の同世代の方の「健康おこし」をしたいという想いも抱く。そのた

めには若者の力も借りたいと櫻井さんは言う。このような市民の想いが、地域の活性化に繋がるのだろうか。(文:林果帆)





ばらっぱまんじゅうを作るよつぐル研究会と東京情報大学の学生のみなさん。
古くから千葉県郷土料理として伝わる。

わいわいのうそん

Y・Y・NOWSON

吉岡の近隣地区は開発が進み、とても暮らしやすい住み良い環境になった。

しかし、少し奥に入れば維持管理されないことのない荒れた土地が広がる。

「地域住民の高齢化が進み、今ではすっかり子どもたちの声も聞こえなくなりました。先人たちから伝えられた伝統や文化、地域行事などを後世に残していくために、今できることは——。」

日本画家として名高い田中一村。そんな一村が愛した四街道市吉岡という地。歴史は深く、豊かな自然の宝庫だった。

今では活気も衰退し、かつての賑わいが徐々に失われつつある。

そんな吉岡のことをもっと広く知ってもらおうと、「一村のアトリエ」を拠点として、「四街道自然農塾」「よつぐル研究会」「東京情報大学総合情報学部」の4団体が共同で発足させた新しい農業のスタイルを提唱するコミュニティ「Y・Y・NOWSON」。

ここでは、日本人の食である稲作事業への取り組みを始め、地元の野菜を使用した料理の創作活動、吉岡地域の自然・歴史探索など幅広い事業を通じて、年代や職種の垣根を超えたたくさ

んの人たちが触れあい、ひとつの場を形成している。

日常交えることの無い人々とのつながりができるということは、この時代には貴重なことであり、まさに素晴らしいと言える。

そして。

「今見つめなければならない問題について“ちょっと”考えて頂ければ——。」

Y・Y・NOWSONでの活動内容はホームページやFacebookに都度アップされ、今やどこに居ても身近に感じる事ができる。

まさに“今どき”のコミュニティスタイルだ。
(文:北田雅人)

Y・Y・NOWSON

「よつかいどう」「よしおか」「ワイワイ楽しく」「ナウい農村」という意味が込められている。

<https://yynowson.wordpress.com/>
Facebook「Y・Y・NOWSON」で検索



ばらっぱまんじゅうと稲を笹につけて、稲虫送りに向かう。
「稲虫送り、田んぼの周囲を歩き、稲に付く虫を山に誘い出す。
この様子は吉岡地区の夏の風物詩となっている。



ふじ農園／うどん屋麦

四街道市の北西部に位置する大作ヶ岡は開拓の地。荒地を一畝一畝掘り起こし、梨を育て、野菜を作り、四街道を生活できる街に作っていったそう。つらい作業も夫婦で、地域で助け合い、開拓の夢をみながら日々を過ごしていたのだろう。

「ふじ農園」には、今でも開拓の歴史を物語るモニュメントが残っている。

「拓け農業」「地球にやさしく 有機 ふじ農園」夏の日照りも、冬の空っ風も「夢」があったから乗り越えられた。モニュメントにも、作業小屋にも当時の面影が残っている。その頃の風を感じられるようなドラマチックな空間。

今は世代を超え、3代目が農地を引き継ぎ、2代目の妻は夫が育てた畑で採れた野菜でおいしい天ぷらを揚げ、うどん屋を営む。

自然の恵みが詰まったうどんは大人気となり、

地域の名物となっている。

3代目の拓郎さんは、ピーマン、オクラ、ピーズ、トマトなど季節の野菜を先代の意思を引き継ぎ、無農薬で育てる。スタビストマトやひよこ豆など新しい野菜にもチャレンジしている。だからこそ、手間がかかる。

先代の夢を、形を変えながらも生業として繋げていく。紡いでいく。四街道の逞しさ、ここにあり。

開拓の地も、70年を超え、麦の穂が揺れる畑は少なくなってしまった。

この先のこの土地をいかに生かしていくか。風にそよぐ青い麦が私たちに問いかけているようだ。(文:古川美之)



戸田養鶏場

開拓1世の父と2世の息子の2代で営んでいる養鶏場。

「息子（3世）にはやってもらう気持ちはない。」という。

「生き物相手だから大変。休みがないからね。」休むのは大晦日と三が日の年に4日だけ。

それでも喜んでもらえている実感があるから続けられる。

開拓当時20軒近くあった養鶏場が今では3軒に。その廃業していった養鶏場のお客を引き受けるような形にもなっている。

市内の学校給食のたまごもここのもの。

また、「戸田さんちのたまごで作った」と謳ったプリンが市内飲食店のメニューに並ぶなど、ブランド化、差別化が図られている。

「新鮮さが何よりウリ。どんなに古くても昨日のたまごだからね。」

市内の農産物直売所も販路のひとつ。

「やっぱり、自分のとこの売れ行きが早いのを実感すると励みになるよね。」

最近、鹿放ヶ丘の産物を活用して新たな産業を興すプロジェクトに予算がつくことが決まり、企画を思案中だという。

新鮮なたまごがほしいひとは自動販売機へ。

「どこよりも何よりも新鮮なものがいちばん割安に手に入るのがここだよ」と教えてくれた。

四街道・鹿放ヶ丘では当たり前の「たまごの自動販売機」。

取材中もひっきりなしにお客が買いにきていたのが印象的。

「うっかりするとすぐ空（から）になっちゃう。そんなときは裏にいるから、声かけてくれたらすぐに次を出せるよ。」と戸田さん。

(文:足立桂子)

リサーチテーマ

03 歴史



「四街道に映画館があったの!？」

僕がリサーチプロジェクトに参加して、最初の衝撃でした。僕自身、生まれたころから四街道に住み続けているのに、まったく聞いたことがありませんでした。

他にも、立派な旅館があったり、四街道に集まる人のためにわざわざ購買列車(※1)がやってきていたそうです。

今では、「四街道ってどんな街？」と質問すれば大体「静かな住宅街」なんて答えが返ってくる人が多い街ですし、僕もそう思っていました。が、どうやらそんな時期だけではないようで、とにかく意外で、「この感覚を共有したい!」と強く思いました。

「何でそんなに人が集まっていたんだろう?」

と当然のように疑問に思いました。明らかに現在の四街道と賑わいぶりが違います。色々な方のお話を伺ったり、当時の写真を見せて頂いたところ、四街道が「軍都」として栄えていた時期があったことが自然と浮き彫りになってきました。

昔から水源に恵まれた土地柄だったそうですが、その恵まれた水源と地形を大村益次郎(※2)が目をつけ、陸軍の演習場が置かれてから、四街道周辺は軍都として栄えていくことになります。当時、四街道には、「旅館、運送屋、写真屋、靴屋、時計屋」が多く存在したそうで、そのうちの多くが軍人をお客とすることが多かったそうなんです。

四街道駅にいたっては、なんとあの東京駅よりも早く完成しているのです! (四街道駅:1894年(明治27年)、東京駅:1914年(大正4年)完成)

現在とはひと味違う四街道を、特にインパクトの強かった「軍都」「映画館」のキーワードに焦点を絞って、皆様にご紹介します!

(文:藤谷大輔)

※1 購買列車

昭和35年頃まで四街道駅に来ていた、貨物車の中身が丸ごと店舗になっていたという「走るコンビニ」。だが、その実態を知る人は少なく、幻となっている。

※2 大村益次郎

日本陸軍の創始者。下志津原を訪れた大村益次郎が陸軍演習場の設置を政府に進言したことから、次々と軍事施設が設置され、軍都として発展したといわれる。



かつて軍都として 栄えた四街道

現在の四街道市役所、四街道高校、中央小学校、中央公園、イトーヨーカドーの辺り一帯は「陸軍野戦砲兵学校」という旧日本陸軍の教育機関が存在しました。

また、現在の陸上自衛隊下志津駐屯地はかつて「下志津陸軍飛行学校」という陸軍の施設があり、それらを中心に戦前の四街道は軍の施設が多く存在する街「軍都」として栄えていました。

現在はいくつかの記念碑などがひっそり残るのみで、軍都の面影はほとんど残っていない四街道ですが、当時そこに生きていた人たちの写真を見ると、軍隊の街、という物々しさとはまた違った印象も受けるのではないのでしょうか。

(文:江河優哉)



四街道駅前の隣組の婦人たち



陸軍野戦砲兵学校内での演習風景。
帽子の色で紅白に分かれての模擬戦を
実施している場面と思われます。



大正時代には当時の皇太子殿下（後の昭和天皇）
が視察に来られました。



下志津陸軍飛行学校での記念写真



下志津陸軍飛行学校にて 八八式偵察機をバックに



下志津陸軍飛行学校 全景



大正14年 陸軍飛行学校内の八八式偵察機



砲兵学校を訪れたと思われる将校たち



四街道駅周辺 昭和初期



枳屋旅館



昭和15年 枳屋旅館でのかるた大会



枳屋旅館で働いていた女性たち。いわゆる女中さん



同時期の駅前大通り。左が現在のフォーレの辺り

軍都に生きた人々

軍都として栄えた四街道には陸軍御用達の施設として、写真屋や靴屋が建ち並んでいました。フランスから教官を招いたことから、洋食屋や喫茶店なども多く存在し、今の四街道にはないハイカラな雰囲気があったといいます。

そして、砲兵学校に駐在する軍人たちに会いに来た親族が宿泊するために、駅前には沢山の旅館がありました。

その中のひとつ、現在の（四街道駅前にある）フォーレの辺りにあった枳谷旅館は、軍の御用旅館かつ運送屋の役割も担っていました。それらも建て代わり、当時の面影を残すものはありません。

また、かつての四街道には赤線地帯があり、洒落た喫茶店や一部の旅館は違い引きの場、という一面もありました。

戦後しばらく、赤線地帯は残っており、当時は

外で長襦袢姿で歯磨きをする女郎さんを見かけることもあったと聞きます。おおらかで開けっぴろげな時代だったんだなと感じます。

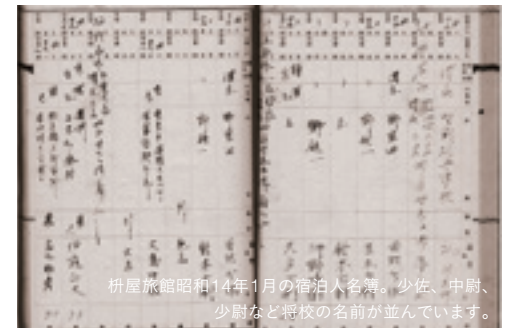
(文:村井信行)



昭和10年代頃。当時の枳屋旅館主人の村井茂さん（左奥）家族の集合写真。わりとモダンです。



昭和50年頃の枳屋旅館



枳屋旅館昭和14年1月の宿泊人名簿。少佐、中尉、少尉など将校の名前が並んでいます。



現在のゲームセンター「ESTASION」かつてはここに「四街道映画劇場」がありました。

四街道映画劇場

昭和30年代、四街道駅前には肉屋や洋食屋、喫茶店、ラムネ工場、おもちゃ屋など多くの商店が並び、活気に溢れていました。現在の四街道一丁目公園の近辺には「共栄マーケット」という2階建ての長屋にウナギ屋や手芸店が並び、市場もあり、買い物客やそこで遊ぶ子ども達で賑わっていたそうです。

そして現在のゲームセンター「ESTASION」(昔のスーパーさかい)の敷地は昭和30年頃から昭和39年までの短い期間でしたが「四街道映画劇場」という名前の映画館がありました。座席数は300席ほど。1階建ての質素な作りで券売所が土間になっていました。券売所の向か

いには売店があり、最中やラムネが売られていましたが、多くは隣の福島パン(現在の福島製菓)でお菓子を買って、それを食べながら映画を観ていました。

娯楽の少ない当時はかなり賑わっていて立ち見が多かったそう。「社長外遊記シリーズ」や「若大将シリーズ」など、当時の大ヒット作が都市部から少し遅れてやってくる、いわゆる二番館的なものだったようです。当時はどこもそうでしたが、タバコの煙で場内はモクモクとしていたそうです。(文:村井信行)



最後に公開されたのは四街道がロケ地になった「陛下下天降」(昭和38年公開)ロケ当時はまだ兵舎が残っていたので、軍隊を舞台にした本作のロケ地に選ばれたようです。ちなみに本作は今見てもすごく笑えて面白く、若かりし渥美清が寅さんをしのぐ魅力的な人物を演じている傑作ながら、兵隊になればご飯が食べれて風呂にも入れて天国じゃ、という人が主人公なので、現在ではかなり作りづらい内容です。DVD化され、huluでも配信されているので比較の見やすいです。



四街道映画劇場での公開作「社長外遊記シリーズ」「ハワイの若大将」「五十万人の遺産」「イチかバチか」「ホノルル・東京・香港」「台所太平記」「写真記者物語 瞬間に命を賭けろ」「妻という名の女たち」「あの娘に幸福を」(以上は全て昭和38年公開)



四街道映画劇場の従業員の方々。支配人の娘さんがモグリを手伝ったりもしていました。



ワークショップを終えて

「四街道駅から500m以内に城跡、長屋門、弘法大師堂、お地蔵さま、道祖神、御神木などドラマチックな文化財があるよ！」と和良比地区の歴史案内を皆さんにしました。参加者が20代、30代の若者であった事に驚きました。案内終了後、自己紹介と皆さんの四街道に対する想いを聴きました。デザイナー、管理栄養士、市役所勤務、主婦、東京が勤務地、他市からの参加、実に様々なのに四街道が大好き、もっと知り、伝えたい・・・という情熱が私の胸に強く伝わって来た事に、更に驚き嬉しく感じました。案内役1回だけの心算でしたが6回全部に参加させていただきました。3つのチーム（人・活動、生業、歴史）に分かれて作業がスタートしました。素晴らしい切り口に感心しました。短い期間の割には予想以上の完成度ですが、更なる掘り下げに期待しています。

アドバイザー 小沢 武



ワークショップ参加者・スタッフ



講師 高橋 孝治



アドバイザー 小沢 武



石渡 由右子
(人・活動)



小島 妃佐子
(人・活動)



千脇 みゆき
(人・活動)



藤原 達
(人・活動)



足立 桂子
(生業)



北田 雅人
(生業)



林 果帆
(生業)



古川 美之
(生業)



江河 優哉
(歴史)



中川 美奈
(歴史)



藤谷 大輔
(歴史)



村井 信行
(歴史)

スタッフ 齋藤 久光 (事務局) / 両見 英世 (進行) / 岡 篤郎 (記録) / 島村 友子 (記録)

活動記録

2015年9月26日(土) 第1回リサーチワークショップ

全体 顔合わせ、プロジェクトの趣旨説明

2015年10月12日(月) まち歩き

全体 アドバイザー 小沢武さんによる四街道市和良比地区まち歩き

2015年10月17日(土) 第2回リサーチワークショップ

全体 小沢武さんによる四街道市の解説、参加者によるアイデア出し

2015年11月21日(土) 第3回リサーチワークショップ

全体 リサーチテーマの集約、グループの編成、取材先の調査

2015年12月19日(土) 第4回リサーチワークショップ

全体 グループごとに取材
人・活動 NPO法人四街道市プレーパークどんぐりの森 取材
生業 大日、鹿放ヶ丘、大作岡地区 フィールドワーク
歴史 枳屋旅館 村井利正さん 取材

2016年1月15日(金) 独自取材

人・活動 NPO法人四街道子どもネットワーク 取材

2016年1月16日(土) 独自取材

人・活動 四街道市子ども会育成連合会 取材

2016年1月23日(土) 第5回リサーチワークショップ

全体 グループごとに取材
人・活動 子ども向け活動団体一覧のまとめ
生業 Y・Y・NOWSON、農家の櫻井さん、ホンモロコ養殖 取材
歴史 枳屋旅館提供写真 選定

2016年2月6日(土) 独自取材

歴史 画家 福田芳生さん 取材

2016年2月9日(火) 独自取材

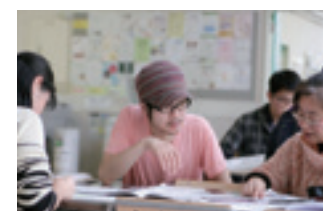
歴史 四街道一区 大橋広史さん 取材

2016年2月13日(土) 第6回リサーチワークショップ

全体 チームごとに取材、展覧会準備、原稿執筆
人・活動 展覧会準備
生業 農家の櫻井さん、ふじ農園・うどん屋麦、戸田養鶏場 取材
歴史 展覧会準備

2016年2月18日(木) 独自取材

歴史 四街道一区 須藤利雄さん、町田茂さん、中尾千恵子さん、野田隆さん 取材





ドラマチック四街道 リサーチプロジェクト

2016年3月19日発行

発行

四街道市（シティセールス推進課）

〒284-8555 千葉県四街道市鹿渡無番地

電話 043-421-2111（代表）／ 043-421-6162（担当課）

<http://dramaticyotsukaido.com/>

編集：

高橋孝治

両見英世

デザイン

藤原達（しなやかデザイン）

© Yotsukaido City

Dramatic Yotsukaido